

信楽に
心強い仲間

地域おこし協力隊 新たに2人就任



▲中嶋市長と握手を交わす上原隊員(左)と横山隊員(右)

信楽地域に初の協力隊

市内の地域おこし協力隊としては、昨年度から活動を始めている土山町山内地域、甲南町宮地域(甲南第三学区)に続き、今回が3例目となります。このほど隊員となられたのは、京都府出身の上原勇気さんと、鹿児島県出身の横山絵理さんです。4月1日の委嘱式では、中嶋市長が「信楽焼や朝宮茶、紫香楽宮跡など豊富な地域資源がある信楽地区で、地域社会の新たな担い手として地域振興に努めていただくとともに、さまざまな人との交流の中で人脈を広げ、今後の活動につなげてくださ」と2人に激励の言葉を贈りました。特に今回の協力隊は、10月に予定されている3年に一度の「信楽まちなか芸術祭」の企画、運営に取り組みます。信楽では新しく心強い仲間を迎えたことで、地場産業の振興や観光誘客など、さらなるまちの活性化が期待されます。

信楽に新しい風を



隊員を受け入れた信楽焼振興協議会会長 松本洋一さんの話

信楽地域は信楽焼をはじめとする有名な地場産業がありますが、ここ最近では低迷傾向にあります。そんな状況の中、お二人には、既存概念にとらわれない力溢れる活動をお願いし、信楽に新しい風を吹き込んでもらいたいと思っています。特に、地元の人との交流をとおして地域住民同士の連携や連帯を育む活動を展開いただき、信楽焼の振興につなげてもらうことを願っています。信楽を住民と共に盛り上げ、一緒になって、まちの活性化を進めていただくことを期待しています。

住民と協力して地域の活性化を進める「地域おこし協力隊」として、このほど信楽地域に2人の隊員が就任しました。隊員はこれから信楽で生活し、地域に密着しながら活力あるまちづくりに取り組めます。

信楽焼の新しい需要創生 上原隊員

現在は信楽まちなか芸術祭に向けた準備を進めています。お客さんも運営するスタッフもお互いが楽しめるイベントにしたいと思っていますし、それが信楽の産業や地域活力につながると思っています。私は料理が好きで、自然と器にも目が向きます。特に素材で柔らかない趣のある信楽焼にはとても魅力を感じてきました。芸術祭後の活動としては食を通しての信楽焼の新しい需要創生に取り組み予定です。具体的には、地元の郷土料理を信楽焼に盛り付けて、信楽のよさを体感してもらったり、通販サイトで信楽焼を紹介して、器と料理が調和した、信楽焼のあるライフスタイルを提案したいと思っています。また、外国人向けサイトを制作して、海外に発信したり、若い世代の人々にも信楽焼の魅力を伝えられるよう、地域の発展に精一杯頑張ろうと思っています。



▲信楽まちなか芸術祭に向け、準備を進める上原隊員

新しい魅力の発見と発信 横山隊員

大学4年間で学んだ「空間デザイン」を実践するために地域おこし協力隊になりました。今は、10月に行われる信楽まちなか芸術祭を成功させることが目標ですが、芸術祭をとおして色々な人と関わりながら、地域に溶け込みたいと考えています。信楽には陶器やお茶といった全国的に有名なものがありますが、他にも人々を惹きつける良さや魅力がたくさんあります。今後はこれらを取りサーチし、新しい目線で「信楽」を再発見したいと思っています。そしてその発見をどのように外部へ発信するか、どのように見せるかなどを地域の方と共に考え、多くの観光誘客につながるような情報発信活動につなげていきたいと考えています。信楽に来てまだ日は浅く、全てが新鮮に映っています。この気持ちや感覚を忘れずに、地域の活性化に貢献していきたいと思っています。



▲信楽焼の説明を受ける横山隊員

地域の方と素顔の付き合い

宮地域(甲南第三学区)の地域おこし協力隊

田中啓介さんからのメッセージ



現在、ヒマワリやゴマといった特産品の開発をしていく準備の中で、畑作をする上でのさまざまな課題に試行錯誤を続けていますが、地元の人たちが自分の顔と名前を覚えてくれ、向こうからあいさつをしてくれるようになり、とてもうれしく思っています。担当地区は違いますが、甲賀市を愛し、地域の方々と素顔で付き合い合うことがとても大切です。そんなコミュニケーションの中で良い化学反応をおこせるよう、お互い精一杯活動していきましょう。

信楽まちなか芸術祭とは

「信楽まちなか芸術祭」は、信楽焼の普及や観光促進を目的に、3年に一度のイベントとして平成22年に始まりました。3回目を迎える今回は、「信楽流おもてなし」-「自然・陶・茶」をテーマに、10月1日(土)～23日(日)まで開催されます。

問い合わせ
商工政策課
☎65-0709 / ☎63-4087